

< 特別寄稿 >

正山征洋先生のご厚意で所蔵されている「ボタニカルアート」の一部を紹介していただく事になりました。大変貴重で興味深く、芸術性も高い作品に加え先生自ら解説されています。

ボタニカルアート

九州大学名誉教授・長崎国際大学名誉教授

正山征洋先生

第69回

牡丹



TREE PEONY
(PÆONIA MOUTAN)

$\frac{4}{5}$ Nat. size

VOL. I.—Front.

ボタン科に属する木本で中国が原産のボタンです。お正月前後から咲き始める種を「寒牡丹」と呼びおめでたい花とされています。

「立てば芍薬座れば牡丹歩く姿は百合の花」と美人を形容する美しい大ぶりの花を開きます。同属のシャクヤクは草本です。何れも重要な薬用植物でペオニフロリン、ペオノール等共通した成分を含んでいます。ボタンの根の芯を抜き去ったものを牡丹皮と言います。牡丹皮は最も強い駆瘀血薬の一つで、血液の流れを良くし、体にこもった不調を改善する働きをします。牡丹皮を配合した漢方薬には桂枝茯苓丸、加味逍遙散、八味地黄丸、大黄牡丹皮湯、温経湯等広く用いられている漢方薬が含まれます。

本画はステップによる1850年頃の作です。